

シュスラン属原種ランの栽培失敗談

夏井高人

自宅ではシュスラン属の原種ラン（シュスラン、ベニシュスラン等）とキヌラン属の原種ラン（ヤンバルキヌラン、キヌラン等）を何種類か栽培している。

あからさまに経験不足の素人なので苦労しながらの栽培。いまだに試行錯誤が続いている。

もちろん失敗は山ほどある。シュスラン属での失敗をキヌラン属との比較で紹介しようと思う。

1 培養土について

気候や平均気温等にもよるのだろうと思われるが、私の自宅ではミズゴケ単用での栽培が比較的うまくいくことが多い。そこで、ミズゴケ単用で育ててみた。結果として、キヌラン属でもシュスラン属でもあまりうまくいかない。特にシュスラン属ではうまくいかなかった。

ただし、ヤンバルキヌラン等では液肥（ハイポネックス溶液をかなり薄めたもの）を与えると結構元気に育ち開花にまで至るし、新芽も出るようだ。栽培家の中にはミズゴケ単用でシュスラン属を栽培している方もあるようなので、何か工夫があるのだろうと思う。更に研究したい。

他方、配合土で育ててみた場合、キヌラン属でもシュスラン属でもちゃんと育つ。ただし、うっかり水を怠り鉢が乾燥してしまうと、キヌラン属でもシュスラン属でもたちまち具合が悪くなる。

キヌラン属とシュスラン属を比較してみると、キヌラン属のほうがシュスラン属よりも回復が悪いようだ。そのような場合、キヌラン属の中にはミズゴケ単用で養生してみると回復するものがあった。

以上のほか、バーク植えなども試みているが、いずれについても結果はあまり良くなかった。

2 栽培環境について

いろいろと試してみた。一般的な栽培方法のほか、室内で熱帯魚用大型水槽の中で育ててみた。結果として、通風があまり良くない水槽内では、シュスランにハダニがつき、増えてしまうことがあった。キヌラン属ではそのようなことがほとんどなかった。

ハダニは普通の栽培方法による場合でもつくことがある。とても厄介な存在だ。水槽栽培では駆除だけではなく水槽内の洗浄や消毒をしなければならないことになるので、更に厄介なことになる。

このように属によってハダニ被害発生状況が異なるのは、属としての特性によるものかもしれない。

3 施肥について

キヌラン属では、上記のとおり、施肥をしないと開花しないことが多かった。施肥をすると開花率が高いようだ。

これに対し、シュスラン属では施肥をしてもうまくいかなかった。ミズゴケ単用では具合が悪くなってしまうことが多かったことは、上記のとおり。配合土で栽培した場合、植物体がどんどん大きくなり茎が伸びるのは良いのだが、いつまでも開花しない。その原因はよく分からない。もしかすると栽培の仕方が根本的に間違っているのかもしれないので、更に研究してみたい。